

「輸送・貯蔵専門調査会」2014年度会員募集について

2014年5月
一般社団法人 日本原子力産業協会

当協会は、産業基盤強化活動として、「輸送・貯蔵専門調査会」を設置して、専門分野に関する情報の共有化、業界の相互交流の場を提供し、輸送・貯蔵関連産業の育成・発展を図るための業際活動を実施いたしております。具体的には定例会において、講演、パネル討論、施設見学および意見交換を実施いたしております。

つきましては、各種関連業務に従事される方々におかれまして、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

○会員募集要綱

1. 趣旨 別紙-1

※参考資料に活動実績を添付します。

2. 調査会年会費：1名につき(消費税8%を含む)

日本原子力産業協会の会員企業・機関にご所属の方……140,400円
(準会員:21,600円)
上記以外の方……………280,800円
(準会員:32,400円)

同企業・機関にご所属の2人目からは、準会員制度の適用があります。

年会費は、定例会合費、資料代等活動の運営に充当します。

ただし、施設見学会等の特別な費用は除きます。

3. お申込み

以下の5項目について下記問い合わせ先まで、メール等にてご連絡下さい。

- ①(ご登録者)氏名・フリガナ
- ②会員の種類(正会員もしくは準会員)
- ③連絡先(会社(団体)名、住所、電話、FAX、E-mail)
- ④請求書送付先(※上記連絡先と異なる場合にご記入下さい)
- ⑤ご希望の講演テーマ・講演者、施設見学先(※ご意見・ご要望等がございましたら、ご記入下さい)

4. 問い合わせ先

一般社団法人 日本原子力産業協会 地域交流部
〒105-8605 東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー 9階
TEL:03-6812-7102 FAX:03-6812-7110
E-mail:yschosakai@jaif.or.jp

以上

「輸送・貯蔵専門調査会」について

趣旨:

放射性物質輸送は、原子力開発利用の進展にともない多種・多様化している。特に近年では、使用済燃料の中間貯蔵、MOX 燃料製造、原子炉廃止措置など諸情勢の新展開に対し、所要の機器やシステムの研究開発および技術的対応、規格基準の整備など、適確に対応していくことが求められている。さらにこれらは、国際標準や国際条約の要件を満たすことも必要である。また、燃料、廃棄物の貯蔵とのインターフェイスが重視され、システムとしての技術開発も重要となっている。

「輸送・貯蔵専門調査会」は、原子燃料物質等の輸送および貯蔵に関する研究・技術開発動向、ならびに関連法令や技術基準の国際動向などの現状および将来見通し、課題・対策などに関して、講演、パネル討論、関連施設の見学および意見交換を通じ、専門情報の提供・交流を行い、産業界の発展に資することを目的とする。

【コーディネータ】

有富 正憲 東京工業大学 名誉教授, 非常勤産学官連携研究員

【副コーディネータ】

伊藤 大一郎 原燃輸送(株) 設計開発部 規格基準グループ グループマネージャー

【活動内容】

参加会員から希望テーマ(講演・見学先)の提案を受けた上で、それに基づき企画し、年間7回(2014年7月から1年間)程度の定例会合を実施する。テーマは、半期ごとに幹事会にて検討し、会員にお知らせする。

【テーマの例】

- ①IAEA を中心とする国際動向および国内法令、規則等の改定動向
- ②国内および海外における使用済燃料の中間貯蔵、原子燃料物質の輸送の現状と将来の課題
- ③学会、および民間基準策定の動向と課題
- ④原子燃料サイクル施設と輸送問題の検討
- ⑤廃炉や設備更新に伴う大型放射性廃棄物の処分に関する輸送の課題他
- ⑥地震に伴う原発事故の現状と今後の取組み

(参考資料)

2013年度の活動実績

(敬称略)

No.	開催日	テーマ	講演者
第 56 回 2013-1	7月9日	①INFCIRC/225/Rev.5(輸送関係)について ②乾式キャスク貯蔵に関する世界的動向 —長期貯蔵— ③最近のIAEA輸送安全ユニットの活動	桶谷 光洋 (JAEA) 三枝 利有 (電中研) 亘 真澄 (電中研) 近内 亜紀子 (海技研)
第 57 回 2013-2	9月17日	① IAEA 輸送環境技術会合報告 ②原子力学会標準 輸送容器の安全設計・ 検査基準改定について ③福島第一原子力発電所における乾式貯蔵キ ャスクの点検・メンテナンス結果	広瀬 誠 (元・原燃輸送) 溝渕 博紀(オー・シー・エル) 海老原 稚典(東京電力)
第 58 回 2013-3	10月17 ～18日	見学会 東京電力(株)福島第一原子力発電所	免震重要棟見学および1F 構 内専用バス車中からの見学 (乾式キャスク仮保管設備、多核 種除去設備、1～4号機外観 他)
第 59 回 2013-4	12月10日	①PATRAM2013 全体概要報告 ②PATRAM2013 詳細報告	田中 ゆかり(原燃輸送) 他
第 60 回 2013-5	2月4日	①リサイクル燃料備蓄センターの状況について ②TRANSSC27 報告 ③福島廃棄物関連状況	高橋 雅彦(リサイクル燃料貯蔵) 伊藤 大一郎(原燃輸送) 鈴木 浩(三菱総研)
第 61 回 2013-6	3月18日	①使用済燃料輸送キャスクの共同開発とその意義 ②研究炉使用済燃料の航空輸送 ③研究炉使用済み燃料等の輸送	大橋 正雄 (JANSI) 広瀬 誠 (東工大) 塙 信広(JAEA) 磯西 信一(住友商事)
第 62 回 2013-7	5月13日	①福島第一原子力発電所使用済み燃料プー ルからの燃料取り出しの取り組み状況について ②輸送物過酷試験について ③輸送物の外部環境による影響について	徳森 律朗(東京電力) 伊藤 千浩(電中研) 松本 光郎(原燃輸送)

2012年度の活動実績

(敬称略)

No.	開催日	テーマ	講演者
第 49 回 2012-1	7月 10 日	①Ramtransport2012 報告 ②日米輸送セキュリティ机上演習報告 ③福島の実況-被災者による復興への試み-	三枝 利有(電中研) 田所 昇(JAEA) 野坂 明信(原燃輸送) 半谷 輝己(たむらと子どもたちの未来を考える会)
第 50 回 2012-2	9月 11 日	①関西電力におけるストレステストおよび地震・津波対策について ②東日本大震災による女川原子力発電所被害状況の概要および更なる安全性向上に向けた取り組み ③IAEA 安全基準の見直し状況について	林 昭宏(関西電力) 小保内 秋芳(東北電力) 広瀬 誠(原燃輸送)
第 51 回 2012-3	10月 25 ～26 日	見学会 日立造船(株)有明工場	キャスク・キャニスタ工場、圧力容器工場、船用原動機工場、造船工場、造船ドック等の見学
第 52 回 2012-4	12月 6日	①海上技術安全研究所における輸送リスク評価の取り組み ②サイト外の除染に伴う放射性廃棄物と輸送—汚染水の除染実証試験—	望月 宙充(海技研) 平尾 好弘(海技所) 有富 正憲(東工大)
第 53 回 2012-5	2月 7日	①放射性医薬品・RI輸送の現状と課題 ②放射性物質の輸送・貯蔵に係る温故知新 ③台湾における使用済燃料貯蔵	中村 伸貴(RI協会) 志村 重孝(東工大) 竹田 浩文(電中研)
第 54 回 2012-6	3月 21 日	①福島第一原子力発電所の使用済燃料管理計画について ②原子炉解体により発生する低レベル放射性廃棄物の概要 ③フクシマ後の世界の原子力動向	松本 光郎(東電) 蒔込 敏(原電) 小林 雅治(JAIF)
第 55 回 2012-7	5月 16 日	①原子力規制委員会及び核燃料輸送物等の安全規制について ②金属キャスク構造規格について ③ウィーンの国際機関動向と周辺国の原子力事情見聞	緑川 和徳(原子力規制庁) 清水 仁(日立GE) 北村 隆文(JAEA)

2011年度の活動実績

(敬称略)

No.	開催日	テーマ	講演者
第 42 回 2011-1	7月 21 日	①福島第一原子力発電所の状況について ②放射性物質輸送の安全規制に係る最近の動向 ③WNTI(世界原子力輸送協会)派遣報告	広瀬 誠(原燃輸送) 池沢 芳夫(放射線計測協会) 高荷 道雄(原燃輸送)
第 43 回 2011-2	9月9日	①TMI破損燃料の取り出し・輸送・貯蔵について ②IAEA 輸送規則 2012 年版について ③福島後の世界の原子力発電動向	亘 真澄(電中研) 広瀬 誠(原電) 小林 雅治(JAIF)
第 44 回 2011-3	10月10 ～11日	見学会 (株)日本製鋼所室蘭製作所、 核燃料物質運搬船	原子力機器材料の製造、 運搬船の見学
第 45 回 2011-4	12月6日	①IAEA 放射性物質輸送安全・セキュリティ国際会議 報告 ②欧州使用済燃料貯蔵調査団報告 ③J-MOX 輸送容器落下試験について	近内 亜紀子(国交省) 有富 正憲(東工大) 林 靖峰(原燃輸送)
第 46 回 2011-5	2月9日	①放射線防護基準の成り立ちとBSS改訂の動向 ②INFCIRC/225/Rev.5 について ③福島第一における使用済燃料プールからの燃 料取り出しに係わるキャスクの活用計画について	服部 隆利(電中研) 稲村 智昌(電中研) 松本 光郎(東電)
第 47 回 2011-6	3月 22 日	①英国の原子力・原子燃料事情 ②International Nuclear Services 会社概要及び 原子燃料輸送について ③MOX 燃料輸送の実績 ④プルトニウムの海外からの輸送経験	高原 哲也(丸紅) ダニエル・ホッグ (International Nuclear Services) 井野瀬 晶一(JAEA) 菊池 三郎(RANDEC)
第 48 回 2011-7	5月 15 日	①災害廃棄物等の放射能汚染状況の調査 ②除染モデル事業等の結果概要 ③サイト外における除染・廃棄物の取組み/ そこに潜在する輸送問題	川崎 智(JNES) 宮原 要(JAEA) 鈴木 浩(三菱総研)